

未来を拓く力を育む総合的な学習の時間の在り方
～地域を生かした体験的な活動を通して～

日立市立会瀬小学校

1 はじめに

本校の総合的な学習の時間は、校庭に大きくそびえ立つけやきの木にちなんで、「けやきの時間」という名がついている。学習指導要領解説総合的な学習の時間編に、「よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目指す。」と書いてあるよう、この「けやき」のように、様々な経験や体験から学んだことを生かし、大きく成長してほしいという願いが込められている。

ここでは、児童自ら課題を設定し、考えることができるよう、地域を生かした体験的な活動を設定し、日常生活や社会との関わりをもとに第5学年で行っている「手をつなごう！今わたしたちにできること」をテーマにした一昨年度と昨年度、今年度の事例をまとめたものを紹介する。

2 資料（実践例・写真等）

(1) 単元名 「手をつなごう！今わたしたちにできること」

(2) 目 標

- 福祉体験を通して、自分にできることを日常生活や社会の中で生かすことができる。
- 福祉体験を通して、考えたことや感じたことなどをリーフレットにまとめたり、報告したりすることができる。
- 福祉体験を通して、互いの立場を認め合ったり、尊重したりして積極的に関わろうとすることができる。

(3) 単元について

本単元は、福祉体験を通して「今、自分にできること」を考えさせ、今後の日常生活や社会の中で、その経験を生かすことのできる児童の育成をねらいとしている。高齢者施設や保育園への訪問を行い、異年齢集団との関わりから、ねらいを達成するための課題を見だし、その課題の解決を目指すものである。また、車いす体験やアイマスク体験等の障害者体験も行い、たくさんの人の気持ちを考え、互いに認め合ったり尊重したりすることのできるよう指導していく。

(4) 指導計画（50時間扱い）

- ① 福祉について調べ、人にやさしいまちについて考える。
- ② 車いす体験やアイマスク体験、高齢者擬似体験等をする。
- ③ 福祉について調べたことや体験して考えたことなどをリーフレットにまとめる。
- ④ 高齢者施設や保育園への訪問の準備をする。
(どちらに訪問するか担当学年の教員で決定する。)
- ⑤ 高齢者施設や保育園への訪問し、交流したり見学したりする。
- ⑥ 訪問活動で体験し、考えたことや感じたことをまとめ、報告会をする。

(5) 実践

＜車いす体験・アイマスク体験・高齢者疑似体験の様子＞



・初めて車いすに乗ったり、押したりして車いすでの生活や支える人の思いや大変さを知る体験となった。



・高齢者の視界や手先の感覚を体験し、高齢者に優しく接していこうという気持ちが高まった。

＜高齢者施設・保育園訪問の様子＞



・高齢者や保育園児のために福笑いやおままごとなど、自分たちができることを考え、楽しませることができた。



4 成果と課題

(1) 成果

車いす体験やアイマスク体験、高齢者疑似体験など、これまでに経験したことのない体験したことで、興味・関心が高まり、「自分にできることは何なのか」を真剣に考え、意欲的かつ主体的に活動に取り組もうとする児童の姿が多く見られた。また、会瀬学区にある高齢者施設や保育園で体験をすることで、より身近なものと捉え、学校生活や日常生活においても活用しようとする児童の姿も多く見られた。

リーフレットにまとめることや報告会では、調べたことや体験してきたことだけでなく、考えたことや感じたこと、これからの生活の在り方など多面的に考え、表現することができていた。

(2) 課題

今年度は、コロナ禍ということもあり、訪問することができず調べ学習が中心となってしまった。体験活動は児童にとって、とてもよい経験になることを考えると、こういう事態でも体験活動がうまくできるような工夫が必要であると感じた。